

先人の偉業

神野新田

☆ 新田とは？

広い土地を埋め立てたり、人の力で切り開いたりして新しく作った田のこと。

- ☆ 自然災害などで区画が壊され、荒れ果ててしまった土地を立て直すのは、至難の業です。なぜなら、財政面でも、技術面でも強大な支援・指導力が必要となるからです。

現在、汐田小学校の校区内にあたる神野新田と呼ばれる地域も、昭和 28 年 9 月 25 日の台風 13 号により大きな被害を受け、翌 29 年 4 月 15 日、初代神野金之助翁の指導力のもと、開拓がはじまりました。

◎台風 13 号の被害

昭和 28 年、台風は満潮時の高潮と共に津波となって来襲し、堤防が決壊、三郷地区や二回地区の全域が海水に浸かりました。



◎初代神野金之助翁

神野新田開拓の祖。

一族の神野・富田両家の強力な支援のもと、全長 12km 余の大堤防の設計を工夫、自ら草鞋をはき塩水に入るなどの献身的な努力の結果 1100ha という大新田の開拓を成功させました。

この規模は、一個人の事業としては前例がありません。



◎世界一の技術 人造石工法



服部長七翁による考案。

左官職人(壁をぬる職人)の技術「たたき」は、石灰に風化花崗岩(まさ土)を混ぜ、水で練って板や木槌で叩き固めたもののことです。セメント工法が普及するまでの時代、この技術を土木工事に適用し、神野新田では大堤防や各種樋門など、この「人工石工法」によって数々の重要な建造物を築き、開拓工事に大きく貢献しました。

☆ 神野新田資料館

このほかにも貴重な資料が数多く展示してあります。ぜひご利用ください。



(汐田小学校 松原 亜希子)